

# 都市型介護モデル開発に向けた 地域連携体制の構築

菊谷 則行 氏

任意団体「松戸市の地域活動を推進する会」 代表  
 ・2007年 株式会社西友退社 本社企画部門・新規事業開発等長期に担当  
 ・2007年より公益機関にて中小企業の市場開拓、製品開発支援に従事



地域調剤薬局と連携し、通いの場「お業講座」

## 1.背景・目的

- ・2025年に向け、地域の実情に応じた地域包括ケアシステム構築が各地で進められ地域医療従事者の一部には、専門家のみで構築するネットワークを超え地域内の多様な活動と連携する事で、介護予防や多世代の重症化予防に向けた取り組みの模索が始まっている。
- ・松戸市では、2016年11月より総合事業の一環とし、都市型介護予防モデル「松戸プロジェクト」が発足され、都市ならではの豊富な資源を活用して住民の介護予防を推進し、住民が積極的に地域活動に参加できる標準モデルの構築を目指す活動が始まっている。本活動の目的はこれら動きと連動し、行政や専門職等と住民との効果的な連携を推進する事である。これまでの活動から、高齢者の「通いの場」を中心とした活動が介護予防に有効である事が見えて来ている。一方、現状の課題として①新規立上げ支援、②専門職と連携した活動継続支援、③地域活動の見える化、がある事も解って来た。

## 2.方法・想定される成果

任意団体「松戸市の地域活動を推進する会」は、市民による松戸プロジェクトの自発的活動を推進させる目的で平成29年10月千葉大学予防医学センターと松戸市との共同研究に、市民協力者(パートナー)と言う形で委嘱されプロジェクトに参加し、活動を進めて居る市民組織である。現在、任意団体を設立し、活動が持続できる様に体制を整えている。本活動の推進は、同プロジェクト市民組織「松戸市の地域活動を推進する会」が中心となり、地域行政、専門職及び住民との効果的な連携を背景に、以下現状の課題に対応する事を想定している。

- ①新規立上げ支援…NPO等と連携し、「通いの場」設立  
呼掛けとノウハウ提供、利用可能な場の提供

- ②活動継続支援…公的機関、専門職、企業等と連携し、資源発掘と「通いの場」への仲介、「通いの場」運営者間の定期的情報交換会の開催
- ③地域活動の見える化…地域活動がリアルタイムに更新されるウェブサイト構築とその仕組みづくり、インターネットにアクセスが苦手な高齢者に向けた紙媒体定期情報発信ツールの発刊

## 3.活動実施の意義

本活動の推進で、①市民参加の都市型介護予防モデルの構築、②地域共生社会への発展の基礎となる都市型市民参加モデルの構築、③千葉大学予防医学センターと共同の下、全国に貢献しうる研究成果の蓄積、等が期待できる。